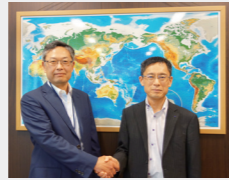


お知らせ

代表理事が交代しました。

6月19日付で榎原則之(写真左)が代表理事を退任し、岩野 宏(写真右)が代表理事に就任しました。今後ともAPIRへの変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

APIR5年の重みを力強くバトンタッチ



宮原秀夫が所長に選定されました。

6月19日の定時評議員会において理事の選任が行われ、新理事体制となったことを受け、同日の臨時理事会において宮原秀夫が改めて所長に選定されました。宮原所長は2011年12月より理事・所長を務めております。



>>表紙について

ぞくぞくと発表されるAPIR2016年度研究報告書を、空高く上がっていく気球になぞらえました。

活動状況

□ は本文に関連記事を掲載。

2017年4月 - 6月

- 4月 7日 「ビッグデータを利用した新しい景気指標の開発と応用」キックオフミーティング
- 4月14日 「環太平洋経済連携協定(TPP)と東アジア経済統合」(2016年度)研究報告会および「アジア太平洋地域におけるFTAのあり方」キックオフミーティング
- 4月21日 「中所得国の新展開」キックオフミーティング
- 4月28日 公認会計士監査
- 4月28日 関西労働研究会
- 5月12日 監事監査
- 5月18日 「アジアにおける開発金融と金融協力」第1回研究会(オープン形式)
- 5月23日 第1回マクロ経済分析プロジェクト研究会
- 5月26日 「人口減少が経済に与える影響の分析」第1回研究会
- 5月26日 講演会「電力システム改革とその課題」(関西経済連合会との共催)
- 5月26日 研究会「電力システム改革とその課題」(関西経済連合会との共催)
- 5月26日 関西労働研究会
- 5月30日 「第112回景気予測と分析」、「Kansai Economic Insight Quarterly No.34」記者発表
- 5月31日 平成29年度通常理事会
- 6月 2日 「中所得国の新展開」分科会
- 6月13日 「インバウンド先進地域としての関西」第1回研究会

- 6月14日 「関西の大学のあり方」講演会(関西経済連合会との共催)
- 6月19日 平成29年度定時評議員会
- 6月19日 平成29年度臨時理事会
- 6月22日 在日カナダ大使館参事官 兼 経済・金融部長John Ormond氏との懇談
- 6月23日 関西労働研究会
- 6月27日 「アジア太平洋地域におけるFTAとEPAのあり方」第1回研究会(オープン形式)
- 6月27日 「関西圏の交通ネットワーク整備とインフラストック効果の検証」第1回研究会
- 6月28日 台湾国立政治大学教授 李世暉氏、研究生との意見交換会
- 6月30日 「ビッグデータを利用した新しい景気指標の開発と応用」第1回研究会



6月22日/在日カナダ大使館参事官 兼 経済・金融部長John Ormond氏との懇談



6月28日/台湾国立政治大学教授 李世暉氏、研究生との意見交換会

編集後記

種を蒔く人

「あなたも何か書いてよ」。いまAPIR職員が(株)共同通信社の会員情報誌にコラムを寄稿していますが、部長や研究員が執筆者として登場する中でプロパー職員の私にも声をかけてくださったのは、故・林 敏彦先生でした。「作家になりたいんです」という私の勝手な言葉を覚えてくださったのだと思います。最初の原稿は林先生のダメ出しが出たので取り下げて、内容をガラリと変えて再チャレンジ。しかし、原稿を読んでいただけのことはありませんでした。

新しい原稿の表題は「本当の大阪らしさ」。お笑いコテコテのイメージが定着してしまった大阪は、実は京都や奈良に匹敵する長い歴史と文化を持つ都市であり、大阪人はそれを自覚して行動すべきだと主張する内容です。原稿を担当部長に渡したところ「林先生もこんなことを書こうとしていらっやいました」と聞かされました。

原稿を書き上げたら、長年考えていたことが収斂されて自分の中に軸ができたような気がしました。林先生の冒頭の言葉が、私の中に種を蒔いたのだと思います。(真鍋)

APIR Now No.12/2017年7月 [季刊]

一般財団法人 アジア太平洋研究所
ASIA PACIFIC INSTITUTE OF RESEARCH

評議員会会長: 井上礼之
(ダイキン工業株式会社取締役会長 兼 グローバルグループ代表執行役員)
理事・所長: 宮原秀夫(元 大阪大学総長)
代表理事: 岩野 宏
研究統括: 猪木武徳(大阪大学名誉教授)
数量経済分析センター センター長: 稲田義久(甲南大学副学長)

〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7階
TEL 06-6485-7692 (アウトリーチ推進部) FAX 06-6485-7689
E-mail contact@apir.or.jp ウェブサイト http://www.apir.or.jp



[発行] 一般財団法人 アジア太平洋研究所
発行人: 岩野 宏
編集担当: 岡田直樹・真鍋 綾 (アウトリーチ推進部)

本誌に関するご意見・ご感想をcontact@apir.or.jpまでお寄せ下さい。
本誌掲載の役職名は会合開催当時のものです。
本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます。

☆メルマガ「APIR」配信登録は左記ウェブサイトよりどうぞ!

APIR Now

No. 12

JULY
2017

2016年度 成果報告特集

研究成果
ぞくぞく発表!

巻頭インタビュー

「学問と技術」で
歴史を紡いできた
オランダと関西
— 新時代の交流と相互理解の深化を

ローデリック・ウォルス

在大阪・神戸オランダ総領事

RESEARCH PROJECT
成果報告2016

FEATURE

追悼・林 敏彦先生

ECONOMIC FORECAST

- 第112回景気予測と予測 / Kansai Economic Insight Quarterly No.34
- APIRインターンの「私が日本を選んだ理由」

TOPICS

INFORMATION

APIR



Mr. Roderick Wols
(ローデリック・ウォルス氏)

オランダ・ライデン大学卒業。オランダ外務省入省。本省政治的保護・移住課上級政策担当官、本省警察・司法協力(EU司法・内務)課次長、在イラン大使館公使(政治・人権・内部管理担当)、本省人事管理課長等を経て、2012年8月在大阪・神戸オランダ総領事(〜2017年7月)。

「学問と技術」で歴史を紡いできた オランダと関西

— 新時代の交流と相互理解の深化を

在大阪・神戸オランダ総領事であり、また関西領事団長を務めるローデリック・ウォルス氏(インタビュー当時)。ウォルス総領事はAPIR刊行の『アジア太平洋と関西』(関西経済白書)の英語版「Kansai and the Asia Pacific Economic Outlook」を高く評価してくださっています。オランダから見た関西・大阪の魅力や重要性、APIRへの評価、期待などをお聞きました。(インタビュー収録日:2017年5月11日)

400年を超える オランダ・日本 交流の歴史

江戸時代の初期に日本とオランダとの交易関係が始まってから400年以上になります。いわゆる鎖国時代、欧州の国として唯一日本と交易を続け、明治時代以降も神戸港などを窓口として関係を発展させてきました。現在では日本からオランダへの輸出額は年間およそ83億ユーロ、オランダから日本への輸出額は年間およそ34億ユーロ(2015年現在)に上ります。また直近の関係者の把握では、450社ほど日本企業がオランダに進出し、40,000人ほどを現地で雇用しています。

学問と技術が紡いできた オランダと関西の歴史

オランダと関西も、強い結びつきを持っています。江戸時代にオランダ

(「阿蘭陀」等と表記)を通じて入ってきた西洋の医学・科学が「蘭学」と呼ばれ、当時の大坂には著名な蘭学塾「適塾」がありました。明治時代にはオランダ人技師が大阪港築港計画や淀川改修などを主導し、関西のインフラ整備に大きく貢献しました。現代では1952年のオランダ・フィリップス社と松下電器産業(現・パナソニック)との技術提携があります。1959年には松下幸之助氏の提唱で「関西日蘭協会」が設立され活動を続けています。オランダと関西は学問と技術でつながり、歴史を紡いできたのです。

オランダから見た関西 — 新市場として魅力的

関西の特徴は何と言っても、古くから貿易の拠点であり、ものづくりも研究開発も盛んなことです。本社機能を東京に

移しても、生産は関西を中心としたネットワークを維持している企業が多いことは、大変魅力的ですね。物価も東京に比べると安いですし、日本のほぼ中心と言ってよい地理的な優位性もあります。巨大市場である中国の経済成長が鈍化している今、オランダ企業は新しい市場を探しています。すでに密接な関係がある関西の企業とはより関係を深め、さらに新たな企業との関係も築いていければと考えています。

英語の情報源として貴重な 「Kansai and the Asia Pacific Economic Outlook」

そのためには、情報が大事です。APIRには研究員だけでなく、企業からの出向者がいます。研究者とビジネスマンが直接交流し、生きた情報をもとに研究が行われているのがAPIRの強みです。

「Kansai and the Asia Pacific Economic Outlook」には非常にわかりやすい情報がたくさん掲載されていますね。ぜひ、APIRの方々と交流し、多くの情報を得られればと願っています。

オランダと大阪大学 — 歴史が交流を育む

私は大阪大学大学院国際公共政策研究科(OSIPP)のアドバイザーボードの委員を務めています(インタビュー当時)。阪大はAPIRの宮原秀夫所長がかつて総長を務めておられましたね。オランダと阪大との関係は深く、前述した適塾は、阪大の前身の一つです。明治時代初期には、阪大医学部の前身となった病院にオランダのグローニンゲン大学から招かれた医師が勤務していました。そのグローニンゲン大学に、宮原所長の総長時代の2005年、阪大の海外拠点が設置され、現在も「大阪大学欧州センター」として活動しています。

歴史は重要です。これらの歴史の上に立った留学生交換などの交流が、今も阪大とオランダの大学との間で続いています。阪大に限らず、関西ではオランダの大学と交流協定を結ぶ大学が増えています。こうしたネットワークを通じて、新たな発見やアイデアを交換することが、より高度な研究開発につながるからです。さらに、学生だけでなく教授たちの交流も深めていければと考えています。

オランダと関西の新しい関係を — 農業と観光

オランダと関西の企業、大学との関係はこのように強いものがありますが、私は今後の関係をもっと幅広いものになりたいと思っています。たとえば、日本では少子高齢化問題は農業で特に深刻ですが、オランダは先端技術を駆使して生産性の高い農業を実現させている農業技術大国です。ぜひこの技術を導入し、農産物を輸出できるほどに日本の農業

の生産性を高めていただきたいと思います。

日本、関西は著名な観光地も多く、訪れるオランダ人も増えていますが、今後はオランダを訪れる日本人を増やしたいですね。観光で現地の人と交流しお互いを学び合うことによって、相互理解が生まれます。

同時に、世界中から日本に来る人のニーズを知ることも大切です。たとえば、日本では温泉のキャンペーンが盛んですが、オランダ人は温泉に入りません(笑)。ぜひ、外国人を集めてプレーンストーミングし、それぞれの国の観光スタイルを探ってほしいと思います。それが相互理解を促進します。

ニッチな市場こそ APIRが英語で情報発信を

前述のように、日本企業のオランダへの投資は盛んで、オランダで働く日本人



オランダは先端技術を駆使して生産性の高い農業を実現(画像はイメージ)

えば、医療など高齢化社会に対応した新しい市場が、特に関西には多いはずですが、ニッチな市場には日本語の情報しかないケースが多く、中小企業は情報を得にくいのです。この課題の解決のために、APIRが役割を果たしていただくことを期待します。豊富な情報をどんどん英語で発信してほしいと思います。

ビッグイベントを好機として KANSAIのPRを!

実は、「KANSAI」という言葉自体がオランダ人にはわかりにくいのです。大阪に来るとき、まず関西国際



2005年、大阪大学グローニンゲンセンター(現 大阪大学欧州センター)開所式で挨拶する宮原秀夫 大阪大学総長(当時。現APIR所長)(大阪大学提供)

は多くいます。今後はオランダから日本への投資を増やすことが課題の1つです。たとえば、オランダにはブラバントという州があります。ここには日本企業がいくつか進出していますが、逆に同州企業の日本への投資を促進するため、同州の副知事が有力市場である関西も訪問することになっています。

ただ、これらオランダ企業の投資に関しては、どこに投資のニーズがあるのか、わかりにくいのが難点ですね。たと

空港に到着します。英語ではKansai International Airportと言いますが、「KANSAI? OSAKAではないのか?」と戸惑います。日本では今後、2020年の東京五輪をはじめ、大きなイベントが続きますが、これを「KANSAI」をPRする絶好の機会と捉えてほしい。日本の地理や歴史を誰でも知っていると思わず、「KANSAI」とはどんな地域かを説明する努力を忘れないでほしいですね。

成果報告 2016

～転換期、進むべき道筋を示す～

- APIRは2016年度、3つの柱のもとに研究プロジェクトを実施しました。
- 現時点で成果発表(ウェブサイトに掲載)したものををご紹介します。
- リサーチリーダーの役職名は2017年3月31日現在のものです。



1 アジア太平洋地域の経済的ダイナミズムと今後の行方

環太平洋経済連携協定(TPP)と東アジア経済統合

【リサーチリーダー／上席研究員 木村福成氏(慶應義塾大学教授)】
APIR資料17-03「環太平洋経済連携協定(TPP)と東アジア経済統合 研究報告書(2016年度)」

キーワード 環太平洋経済連携協定(TPP) / 米トランプ政権
ASEAN・東アジア経済統合 / 日本企業
グローバル・バリュー・チェーン

アジアの成長に資する開発金融

【リサーチリーダー／上席研究員 岩本武和氏(京都大学教授)】
APIR資料17-09「アジアの成長に資する開発金融 研究報告書(2016年度)」

キーワード 国際資金フロー / AIIB
「一帯一路」構想 / アジア債券市場 / 人民元

中所得国の新展開

【リサーチリーダー／主席研究員 後藤健太(関西大学教授)】
APIR資料17-13「中所得国の新展開」研究報告書(2016年度)」

キーワード 中所得国 / インバウンド / 対日投資

アジアの知日産業人材との戦略的ネットワーク構築

【リサーチリーダー／上席研究員 大野 泉氏(政策研究大学院大学教授)】
APIR資料17-02「アジアの知日産業人材との戦略的ネットワーク構築—知日産業人材の積極活用・育成・支援への提言—」研究報告書(2016年度)」

キーワード 知日産業人材 / ネットワーク
人材育成、同窓会 / 政府開発援助(ODA)
産業開発協力 / アジア

災害復興の総合政策的研究

【リサーチリーダー／研究員 林 万平(4月～関西国際大学講師)】
APIR資料17-08「災害復興の総合政策的研究」研究報告書(2016年度)」

キーワード 自然災害 / 長期復興
インド洋大津波 / アチエ
Disaster Management Process

国際経済統合とベトナムの銀行部門：健全なシステムへの道

【リサーチリーダー／研究員 Cao Thi Khanh Nguyet】
APIR資料17-12「国際経済統合とベトナムの銀行部門—健全なシステムへの道—」研究報告書(2016年度)」

キーワード ベトナム / 国際経済統合
ベトナム銀行 / 外国銀行の参入

2 人口減少下における関西の成長戦略

インバウンド先進地域としての関西

【リサーチリーダー／研究統括 林 敏彦(大阪大学名誉教授)、
数量経済分析センターセンター長 稲田義久(甲南大学副学長)】
APIR資料17-10「インバウンド先進地域としての関西 研究結果報告書(2016年度)」

キーワード バリュー・チェーン / ウェルネス・ツーリズム
地方創生モデル

関西の大学のあり方

【リサーチリーダー／上席研究員 小林傳司氏(大阪大学理事・副学長)】
APIR資料17-05「関西の大学のあり方—志の高い産学共創を目指して—」

キーワード 大学 / 産学連携

大阪におけるTPP本部創設の必要性と可能性

【リサーチリーダー／主席研究員 Robert D. Eldridge氏(エルドリッジ研究所代表)】
APIR資料17-07「大阪におけるTPP本部創設の必要性と可能性 研究報告書(2016年度)」

キーワード TPP / 国際機関本部 / 米トランプ政権
FTA / EPA

3 経済予測・分析、及びシミュレーション

関西独自の景気指標の開発と応用

【リサーチリーダー／主席研究員 豊原法彦氏(関西学院大学教授)】
APIR資料17-04「関西独自の景気指標の開発と応用」

キーワード 景気動向指数 / 景気予測 / 景気の基調判断
CLI(Composite Leading Indicators)

交通インフラ整備の経済インパクト分析

【リサーチリーダー／主席研究員 後藤孝夫氏(近畿大学教授)】
APIR資料17-01「交通インフラ整備の経済インパクト分析プロジェクト報告書
産業別にみた高速道路のインフラ・ストック効果の検証(2016年度)」

キーワード 交通近接性 / インフラ・ストック効果
高速道路 / 生産関数 / 産業連関表

『研究概要2016』刊行

個別の報告書とは別に、1研究を1ページでまとめた『研究概要2016』を刊行しました。



追悼・林 敏彦先生

元APIR研究統括・アドバイザー

2011年12月のAPIR設立時から研究統括として、本年4月からはアドバイザーとしてAPIRの研究活動を牽引してこられた林 敏彦先生(大阪大学名誉教授)が、4月28日、急逝されました。林先生を偲んで、大阪大学で林先生と学究生活を共にし、昨年11月からは研究統括として机を並べた猪木武徳研究統括の追悼のこぼを掲載します。



林 敏彦先生 プロフィール

京都大学経済学部卒業。スタンフォード大学Ph.D。
大阪大学名誉教授。
大阪大学経済学部教授、大阪大学大学院国際公共政策研究科教授、スタンフォード日本センター理事長、放送大学教授、同志社大学政策学部教授等を経て、2011年12月よりアジア太平洋研究所研究統括、2017年4月より同アドバイザー。同年4月28日死去、74歳。
主な著作『大恐慌のアメリカ』(岩波新書、1988年)、『需要と供給の世界』(日本評論社、1989年)、『経済学入門』(放送大学教育振興会、2004年)、『世界のの中の日本』(放送大学教育振興会、2009年)、『大災害の経済学』(PHP新書、2011年)、他多数。

林 敏彦大兄を偲んで

猪木 武徳

アジア太平洋研究所が設立されて以来、今日までその研究活動を統括して来られた林 敏彦さんが、病のため借しくも2017年4月28日に急逝されました。林さんは優れた理論経済学者として研究生活をスタートされた後、研究関心を不況対策・災害復興政策へと広げ、理論をベースとした日本の政策研究に多大な貢献をなさいました。理知的かつ穏やかで、周りの人へ配慮を怠らない温かな人柄は、彼を知る人から厚く信頼されました。ここに感謝をもって林 敏彦さんの生前の智徳を讃え、その御霊の平安をお祈りいたします。



写真でたどる林先生のAPIR5年間

林先生はさまざまな「顔」をお持ちでした。研究統括としてAPIR全体の研究の方向性・テーマ選定に始まり、個別の自主研究、研究員を指導された指導者としての顔。ご自身の研究にも取り組まれた研究者としての顔。流暢な英語で海外来訪者に應對されたスポークスマンとしての顔。政策提言「Policy Brief」など新企画を繰り出すアイデアマンとしての顔。そして記念シンポジウムや記念座談会などAPIRの節目には必ず先生のお顔がありました。



精力的な活動でAPIRの土台を築かれた林 敏彦先生に、所員一同深く感謝の意を捧げるとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

第112回景気分析と予測/Kansai Economic Insight Quarterly No.34

日本経済 着実な回復を予測するが、リスクは輸出の停滞とインフレの加速

関西経済 停滞抜け内外需とも好材料見られる 先行きの力強い改善に期待



APIR内の研究ユニット、数量経済分析センター(センター長:稲田義久 甲南大学副学長)では、日本経済・関西経済の予測と分析を定期的に行っています。

2017年5月30日発表のAPIRの予測は以下の通り。

(単位%)	2017年度	2018年度	
全国GDP	1.4	1.1	全国GDP…前回予測から大きな変更はないが、内容的にはより輸出拡大に支えられた回復
関西GRP	1.4	1.3	関西GRP…前回予測から17・18年度とも上方修正。足下での景気指標の持ち直しの動きを反映

詳細はこちら 経済予測:Quarterly Report(日本) <http://www.apir.or.jp/ja/research/asis-economy/quarterly-ja/>
 経済予測:Quarterly Report(関西) <http://www.apir.or.jp/ja/research/asis-economy/quarterly-kansai/>

ウェブニュース「産経WEST」に記事掲載されました。

APIRインターンの「私が日本を選んだ理由」

APIRにはアジア太平洋諸国出身のインターンがいます。彼らが日本を選んだ理由を知るとは、日本がどんな国であるかを知ることにつながるといいます。第2回はインドネシア出身のMizan Bustanul Fuady Bisriインターンです。



日本の防災社会から多くのことを学びたい

Mizan Bustanul Fuady Bisri インターン(インドネシア)

Q 日本に来たきっかけは?

母国で地震を経験、「地震国から防災を学ぼう」と日本へ

私は来日前から日本の歴史に興味があり、太閤(豊臣秀吉)に関する本などを読んでいました。そこには戦国時代の大地震のことが書かれていて、日本は地震国として長い歴史のある国だと知ったのです。

22歳のとき(2009年)、私が住むインドネシア・西ジャワ州でマグニチュード7.3という大地震が起き、私は「防災を学ぼう」と心に決め、迷わず日本を選びました。2011年来日して神戸大学国際協力研究科の修士課程に入学、防災や大災害の国際協力について研究しています。

日本で防災を学ぶうちに、日本は技術だけでなく社会システムもすばらしいとわかりました。インドネシアでは、防災は政府やNGOの仕事と捉えられていますが、日本では政府や自治体だけでなく、会社や地域が防災を考えています。日本の防災社会から多くを学びたいと思っています。

2013年、大学の仲間たちと防災知識を世界に広めることを目的にKobe RMC(神戸リスクマネジメントコミュニティー)を結成しました。毎年「阪神淡路大震災1.17のつどい」への出展や外国人向けの防災訓練を行っています。活動が認められて神戸市から補助金の交



Kobe RMCの活動中のBisriさん

付も受けました。私は2015年夏までメンバーで、今は後輩たちが引き継いでくれています。

Q 日本のよいところ、「ここはどうか」と思うところは?

交通システムは完璧/日本はmulticulturalではない

よいところは、やはり社会システムです。特に交通システムが完璧です。電車が時間通りに来る国はあまりありません(笑)。

「ここはどうか」と思うところは、multicultural(多文化的)ではないところです。一部の飲食店(特に高級レストラン)では、外国人だけではお店に入れてもらえないことがあります。それから、アパートを借りるのも難しい場合があります。そんなときは「日本では外国人は別なのだ」という気分させられます。

Q これから何をしたいですか?

「研究のための研究」ではなく「人のための研究」を続けたい

防災研究の他にも、災害をもたらす原因を探る気候変動、災害の被害を最小限に抑えるための都市計画の研究もしています。私の研究は「研究のための研究」ではなく「人のための研究」であり、日本と東南アジアの協力のための研究です。これからも日本と東南アジアで研究を続けていきたいと考えています。

〳 ~Bisriさんはこんな人~子供の名前は「Aiko」〳

私の兄弟も日本で勉強し、働いています。インドネシア人の妻は米国や英国で学んだので、日本での生活に乗り気ではなかったのですが、今では日本が好きになりました。6月に初めての子供(女の子)が生まれましたが、私たちの日本への親愛の思いを込めて「Aiko」と名づけました。日本のプリンセスと同じ名前です。

01 英文白書発表会 — 在関西の総領事・スタッフ、外国企業等も多数参加! 発表会後は交流の場に

~英文白書「Kansai and the Asia Pacific Economic Outlook 2016-17」刊行・販売・発表会~



APIRは年1回『アジア太平洋と関西-関西経済白書』の英語版(英文白書)を刊行・販売しています(定価 本体4,500円+税)。刊行に合わせて、すべて英語による発表会を開催しました。定員を超えるご参加を得て、発表会後の会場は交流の場となりました。

- 開催日: 7月6日
- 会場: グランフロント大阪 ■ 参加者: 67名 ■ 後援: 日本商工会議所/大阪商工会議所
- 発表者(発表順): 稲田義久(APIRセンター長)/後藤健太(APIR主席研究員)/島 章弘(APIRシニアプロデューサー) 木下祐輔(APIR研究員)/Cao Thi Khanh Nguyet(APIR研究員)/Miles Neale(APIRインターン) James Brady(APIR研究員)

参加者のご意見

- 英語で関西を多角的に解説したものはとても貴重
- 職員の勉強会に講師として来てほしい
- 他国の日本企業との関係が聞けてよかった(意外に他国の活動は知らないもの)
- 在日公館から多くの参加者を集めたAPIRの発信力に感心 等

02 APIRは関西経済連合会と連携しています ~共催講演会~

講演会「電力システム改革とその課題」

電力システム改革とエネルギーミックスの実現に向けて議論しました。

- 開催日: 5月26日
- 会場: 関経連会議室 ■ 主催: APIR/関西経済連合会 ■ 参加者: 99名
- 次第: 基調講演「電力システム改革とその課題」 曳野 潔氏(経済産業省 資源エネルギー庁 電力・ガス事業部電力需給・流通政策室長) パネルディスカッション (モデレーター) 有馬 純氏(東京大学教授/APIR主席研究員) (パネリスト) 曳野 潔氏/服部 徹氏(電力中央研究所副研究参事)

「関西の大学のあり方」講演会 ~志の高い産学共創を目指して~

APIR・関経連共同研究の報告です(3ページ「成果報告2016」ご参照)。

- 開催日: 6月14日
- 会場: 関経連会議室 ■ 主催: APIR/関西経済連合会 ■ 参加者: 63名
- 次第: 講演「関西の大学のあり方~志の高い産学共創を目指して~」 小林傳司氏(大阪大学理事・副学長)

APIRの研究体制2017

~研究ネットワーク構築と人材育成の両立~

所長・研究統括・センター長のイニシアチブのもと、外部研究員を上席研究員等として登用し、広い研究ネットワークを構築しています。所内研究員を採用し、人材育成の観点から研究員の調査・研究能力の向上を目指すと共に、APIRが戦略的に取り組むテーマの充実・強化を図ります。(氏名50音順、敬称略)

内部研究員

〈所長〉 宮原秀夫(大阪大学名誉教授/大阪大学大学院情報科学研究科招聘教授)

〈研究統括〉 猪木武徳(大阪大学名誉教授)

〈数量経済分析センター センター長〉 稲田義久(甲南大学副学長)

〈主席研究員〉 後藤健太(関西大学教授) 松林洋一(神戸大学教授)

〈研究員〉 明坂弥香 生田祐介 Cao Thi Khanh Nguyet(ベトナム) 木下祐輔(研究推進部兼任) James Brady(アイルランド)

〈インターン〉 車 競飛(中国) 野村亮輔 Miles Neale(オーストラリア) Mizan Bustanul Fuady Bisri(インドネシア) 矢根遥佳

〈出向者研究員〉 企業出向者

外部研究員

〈上席研究員〉 青山秀明(京大大学教授) 有馬 純(京大大学教授) 岩本武和(京大大学教授) 大竹文雄(大阪大学教授) 大西 裕(神戸大学教授) 大野 泉(政策研究大学院大学教授) 木村福成(慶應義塾大学教授/ERIAチーフエコノミスト) 下條真司(大阪大学教授) 鈴木洋太郎(大阪市立大学教授) 本多佑三(関西大学教授)

〈主席研究員〉 後藤孝夫(近畿大学教授) 豊原法彦(関西学院大学教授) 前田正子(甲南大学教授) 〳主任研究員〳 山下かおり(ダイキン工業)